

## 慧舟の京都便り(四)

真宗興正派には「仏教青年会」という学生会があり、私も参加しています。先月中旬、青年会の活動として、滋賀県野洲市の真宗木辺派の本山錦織寺(きんしよくじ)を参拝し、宗派の歴史などを学ばせていただきました。浄土真宗には十の宗派があり、真宗木辺派もその一つです。同じ真宗といっても作法や教えの解釈に差があるので、比較すると興味深い発見もあります。その中でも、真宗木辺派は浄土宗の影響を強く受けた宗派で、独自色が強い印象を受けました。

浄土宗の影響を受けた要因は室町時代に遡ります。この頃の真宗教団は強大な力を有しており、織田信長と本願寺が徹底抗戦した石山合戦では、天下統一を目前にした信長でさえ約十年間の苦戦を強いられました。当時の錦織寺は本願寺に勝るほどの大寺院であったそう、真宗教団を警戒した諸大名から標的にされました。錦織寺は攻撃を避けるため「二宗兼学」という体制を取り始めました。「二宗」とは浄土宗と浄土真宗のことで、浄土宗を学ぶ傍ら真宗も学んでいるという体制です。あくまで浄土宗の寺院であることを強調して、攻撃を避けていたのです。こうして、現代でも浄土宗の面影が少し残っているのです。

日本仏教は社会変化による影響を受け続けてきました。飛鳥・奈良時代には国費を投入して仏教が積極的に導入され、明治新政府が神道国教化を進めたことで仏教が徹底的に排除されたこともありましたが、錦織寺もまた、戦乱の世の影響を受けた一例でしょう。いずれにしても、仏教はその時代に合わせ常に変化しながら守られてきました。人間は無意味なことと力を注がないので、先人が命がけで守り続けた仏教にはそれだけの大義があります。どんな時代であろうと、形を変えながら、途絶えることなく受け継がれてきた仏教の本質を大切にしていきたいと思える参拝となりました。(後住記)

## 葬儀について

近年、ご身内にご不幸があった際、まずお寺ではなく葬儀社へ連絡される方が増えているように感じます。なかには、通夜や葬儀の日程がすでに決まった後に、「この日程でお願いします」とご連絡をいただくこともございます。しかし、先約が入っておりますと、住職が葬儀を執り行うことがかなわない場合もございます。

また、若い世代の方のなかには、ご自身の家の檀那寺をご存じない方もおられます。葬儀社で紹介されたお寺さまが葬儀を執り行い、後になって参列されたご親族から「檀那寺ではなかった」と知らされ、後日、当院にことわりのご挨拶に来られるというケースも実際にございました。

このような行き違いを防ぐためにも、ご身内にご不幸があった際には、まず檀那寺である当院へご一報いただき、住職の予定をご確認のうえ、通夜・葬儀の日程をお決めいただきたく存じます。あわせて、ご自身の家の檀那寺が坂出市加茂町の正蓮寺であるということ、日頃からお子さまやお孫さまにもお伝えいただいておりますと安心です。

春秋の彼岸会や七月の夏参り、八月の盂蘭盆会、十二月の報恩講、また毎月第一日曜日に行っております定例法話会・納骨堂月例法要などはごなただでもお参りいただけます。可能であれば、一度ご家族そろって当院へ足をお運びいただき、お寺の場所や雰囲気を知っておいていただけますと幸いです。日頃のご縁が、いざというときの安心につながります。

また、どのようなご葬儀を望まれるのか(会場・規模・経費など)について、ご家族や住職と折に触れて話し合っておかれることも、大切な備えのひとつでしょう。

私どもといたしましても、「正蓮寺にお願ひしてよかった」と思っていただけのように、僧侶として、人として、日々努めてまいります。いずれ必ず訪れる大切な方とのお別れが、穏

やかで悔いのないものとなりますよう、お手伝いできれば幸いです。

ご葬儀についてのご相談は、いつでも承っておりますので、どうぞお気軽にお声がけください。

### 坂出市規格葬儀について

坂出市にお住まいの方は、「坂出市規格葬儀」を利用して、正蓮寺にて家族葬を執り行うことが可能です。(但し、当院の行事等の予定が入っていない日に限ります。)

・葬儀社へご連絡の際、「坂出市規格葬儀」を利用し、正蓮寺での葬儀を希望する旨をお伝えください。

・本堂での葬儀は祭壇を必要としないため、祭壇なしの  
Bプラン(五万円)が適用されます。

「坂出市規格葬儀」の詳細につきましては、坂出市のホームページに掲載されております。【坂出市規格葬儀】で検索のうえ、ご確認ください。

当院での葬儀をご検討の方は、事前にご相談いただければ幸いです。ご不明な点がございましたら、どうぞお気軽にお尋ねください。

### 定例法話会・納骨堂月例法要のご案内

毎月第一日曜日

午後二時半より 本堂にて納骨受付

午後三時より 本堂にて勤行・法話会

午後三時半より 納骨堂月例法要

四月五日の法話 住職

五月三日の法話 住職

六月七日の法話 副住職

納骨の有無にかかわらず、ごなただでもお参りいただけます。どうぞお気軽にお越しください。

